

Global Markets Business Unit

市場事業部門

外国為替・デリバティブ・債券・株式等の市場性商品を通じたソリューション提供をはじめ、バランスシートの流動性リスクや市場リスクを総合的に管理するALM業務を行っています。



執行役専務
市場事業部門長

小池 正道

連結業務純益に占める割合(2022年度)

3,742 億円

21%

	2022年度 実績	前年比*1
業務粗利益	4,578億円	+492億円
経費	1,125億円	+70億円
ベース経費	1,100億円	+78億円
業務純益	3,742億円	+441億円
ROCE1*2	16.7%	+1.8%
リスクアセット	6.6兆円	+0.1兆円

*1 金利・為替影響等調整後ベース *2 含むバンキング勘定の金利リスク見合い

市場事業部門は、マーケットリスクのプロフェッショナルとして、自らのリスクテイクを深化させるとともに、お客さまに対して高い付加価値を持続的に提供していくことを目指しています。

これを実現するために我々が最も重視していることは、世界中で起こるさまざまな事象を「3つのI」-Insight(洞察力)、Imagination(想像力)、Intelligence(情報力)によって深く分析し、これから起こる相場を読み解くこと、すなわち、世の中の本質を見抜く力です。

2022年度は、前年度後半から上昇したインフレが世界の分断化等を背景に高止まりしました。多くの先進国の金利は、中央銀行がインフレ抑制へ注力したことで年度前半を中心に大きく上がりましたが、年度後半には米国金融機関破綻を受けた信用不安等により急低下する局面もありました。変化が激しいだけでなく、低インフレ・低金利の世界から全く異なるステージへの移行が進んだ1年だったといえます。

我々のポートフォリオ運営では、株式・債券ともにリスク量を抑制しつつも、機動的なリバランスによって収益を計上しました。また、安定した外貨調達により、お客さまを資金繰り面で支えるとともに、セールス&トレーディングでは、お客さまのニーズを把握し最適なソリューションを提供してきました。

足元のマーケット環境は、先行きに対する不確実性が引き続き高い状況です。また、デジタル化の進展や社会的課題への関心の高まり等、お客さまのニーズの多様化も一層進んでいます。

このような環境下でも、お客さまに選ばれるソリューションを生み出し続けるべく、新中期経営計画では、強みであるDNAは維持・強化しつつ、新たな領域への挑戦と不断の自己改革によって進化していきます。

市場事業部門

重点領域

1

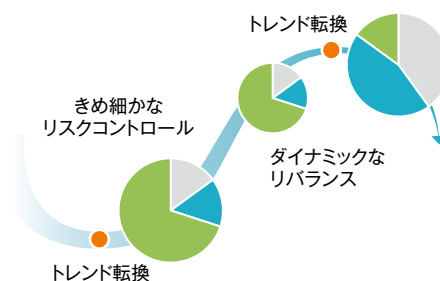
市場環境の変化に応じた 機動的なポートフォリオ運営

我々の強みは、マーケットの変動をプロアクティブに察知し相場のトレンドを捉えることで、ダイナミックにポートフォリオを入れ替えて収益を極大化する力です。

事業部門の一人ひとりが日々起こるさまざまな事象を「3つのI」で情報収集・分析し、徹底的に議論を重ねる。そうして描いたシナリオをポジションとして表現し、その効果を検証する。こうした不断のサイクルによってのみ相場を読み解く力は養われます。

不確実性の高い環境下ではリスクコントロールに重点を置きつつ、来るべき投資機会に備えて運営高度化に挑戦しています。市場の注目が日本の金融政策にも集まっており、中長期的な視点で、日本国債でのポートフォリオ構築の機会もうかがっていきます。

ポートフォリオ・リバランスのイメージ



重点領域

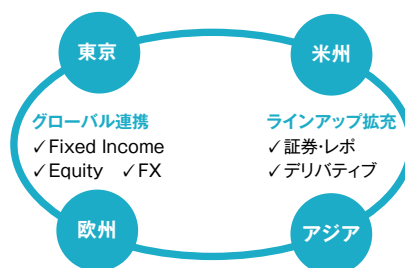
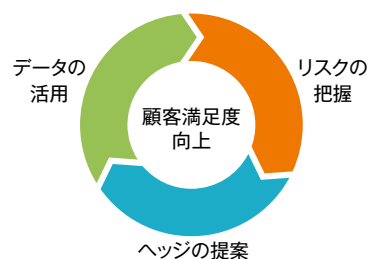
2

市場性商品を通じた ソリューション提供力の強化

お客さまのビジネスやバランスシートに起因するリスクヘッジニーズ、運用や投資を行う際のリスクテイクニーズにお応えすべく、引き続き必要な機能整備を加速しています。

具体的には、高度化・複雑化するお客さまのニーズへ対応するため、それぞれの状況に合わせたオーダーメイドな提案力の強化を進めています。今後も、データの活用や、外国為替取引における電子プラットフォームとの連携等により、お客さまへの包括的なソリューション提供を目指します。

また、米国やアジアを中心に証券ビジネスの推進を加速し、グローバルな連携を深めて、さまざまなプロダクトをワンストップで提供する体制を強化していきます。



グローバル連携
✓ Fixed Income
✓ Equity ✓ FX

ラインアップ拡充
✓ 証券・レボ
✓ デリバティブ

重点領域

3

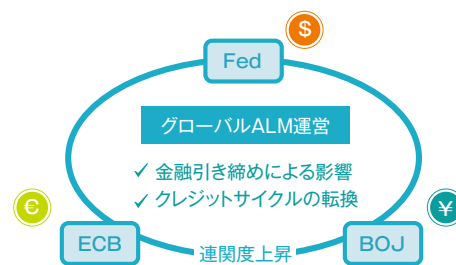
頑健な外貨調達基盤の構築

貸出等を通じてお客さまのビジネスを持続的に支えるべく、外貨調達においては、引き続き安定性確保とコスト抑制の両立を追求しています。

具体的には、定期的な外貨建債券の発行に加え、カバードボンドの発行やクロスカレンシーレポ*の取組等、調達手段の多様化や投資家層の拡大を図りながら、SMBCグループのバランスシート構造やマーケット環境に応じて戦略的に調達を行っています。

今後も、欧米等の金融引き締め継続や、それに起因する金融機関の信用不安、地政学リスクの顕在化等、調達環境への逆風は続きますが、長期的な視点に立ってプロアクティブに対応し、安定的なバランスシートコントロールを進めていきます。

* 国債等を担保とした外貨調達



- 資金繰り・担保繰りの効率化
- 環境に応じた中長期調達戦略

社会的価値の創造に向けた取組

調達した資金の用途を再生可能エネルギー等の環境に配慮したプロジェクトに限定した債券、いわゆるグリーンボンドを定期的に発行しています。

2015年10月に、本邦民間金融機関として初の米ドル建グリーンボンドを発行してから、2018年12月には、本邦民間企業初の個人のお客さま向け、2021年1月には米国における公募形式での発行を通じて、投資家層の拡大に努めています。これまで国内外で7回、計約31億米ドル相当の資金を調達しており、発行に際しては、投資家に対して我々のサステナビリティへの取組を丁寧に説明し、相互理解に努めています。なお、2022年12月、当社として初のグリーンローンによる調達も実施しました。

SMBCグループは、国内外における太陽光発電・風力発電といった再生可能エネルギー事業等に対するプロジェクトファイナンスについて、確かな実績を有しています。今後も日本を代表するグリーンボンドの発行体として、市場のさらなる発展と地球環境の維持・改善に一層貢献していきます。

